

平成29年度 第1回 八雲町熊石国民建国保険病院運営委員会会議録（要旨）

- 開催日時 平成29年8月22日 午後4時～5時
- 開催場所 八雲町熊石国保病院 2階会議室
- 出席委員 宮田千秋委員、平井稲子委員、桂川裕樹委員、牧由紀美委員、
(欠席：干場敬亮委員、刀禰清貴委員)

- 町側出席者 植杉副町長、桂川事務長、菊地次長

ただ今から平成29年度熊石国保病院運営委員会を開催します。

国保病院の運営委員会は、八雲町自治基本条例に基づきまして、広報やくもや町のホームページで開催日を町民に周知しています。

初めに植杉副町長からご挨拶申し上げます。

副町長挨拶

皆さんには平素から国保病院の運営に対しましてご支援、ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

病院も医師2名体制による住民ニーズに対応した診療を行っています。お陰様で熊石地域だけでなく、近隣の町からも患者が来ていただいています。

前年度は診療報酬の返還や源泉徴収税額の追加納付などがあって赤字決算となっております。この内容については3月の運営委員会で説明したとおりであります。今後このようなことがないように十分注意して事務事業を進めて参りたいと思っています。

また、平成25年から城田先生がここに努めていただいていたのですが今年の12月をもって診療を終えることとなりました。次の医師の確保に向けて募集活動をしたり、関係機関に派遣要請をしています。また、看護師も慢性的に不足してまして募集を一生懸命行っています。スタッフ一同住民の健康を守るために鋭意努力していきますのでよろしく申し上げます。

本日は平成28年度決算等について担当より説明申し上げますので、ご意見等を賜りたいと思います。

よろしく願い申し上げます。

(事務長)

それでは会議次第によって委員会を進めて参ります。

続いて決算の概要について説明します。

まず資料1の過去5か年の決算状況をご覧ください。

一番上の患者数をご覧ください。

熊石地域の人口は毎年70人くらい減少していますが、患者数は増加しています、28年度については入院、外来患者数の合計で過去5年間では最高の4万人を越えました。

入院患者は前年と比較して3.7% 765人増、外来患者は8.5% 1,508人合計では5.9% 2,273人増加しました。

診療報酬は3月の運営委員会で報告しました診療報酬の返還等があり、上から5行目の診療報酬合計では前年と比較し、40,702千円減少しました。

支出では、給与費が前年と比較して29,000千円ほど増加していますが、医療事務を委託から直営化したこと、会計制度改正による退職手当引当金の増などによるものです。

特別損失の前年に比較しての増は、奨学資金返還金の免除や過年度分の診療報酬の返還などによるものです。

差引収支では、66,818千円の純損失となりました。

内部留保資金は、前年度と比較して、6,655千円減少し、380,170千円となりました。

続いて決算の状況について説明いたします。

平成28年度病院事業決算をお開き願います。1ページです。

先ほど説明しましたが診療収入の返還があり入院収益は前年度に比較して47,431千円の減、外来収益は患者数の増により6,729千円増加しています。

その他の医業収益は前年度とほぼ同様であります。

医業外収益の他会計補助金、他会計負担金は一般会計からの繰入金です。

長期前受金戻入は国・道の補助金を減価償却と同様に耐用年数に応じて収益化したものです。平成27年度にオーダーリングシステムを導入し、40,000千円の補助金を受けたので前年度に比較し6,175千円増加しています。

その他特別利益は、運営の健全化と経営基盤強化のための一般会計からの繰入金です。

歳入合計では、前年に比較し30,861千円減の906,038千円となりました。

次のページをお開きください。

上から給与費の賃金は前年に比較し、13,427千円の増は、28年度から医療事務を直営化した分と派遣看護師の賃金の増であります。

退職手当給付費引当金は会計制度の改正により新たに発生した項目です。

材料費は前年度に比較して4,610千円の減です。経費はほぼ前年度と同様です。減価償却費は平成27、28年度にCTや内視鏡システムの医療機器やオーダーリングシステムを整備したため、前年度比較で11,648千円増加しています。

特別損失は前年度に比較して21,134千円増加しています。

奨学資金返済免除1名分2,520千円、過年度診療報酬返還15,699千円等によるもの

です。

総収支では 66,818 千円の純損失となりました。

次のページをお開きください。

医療機器購入のための企業債は 9,200 千円、企業債償還金経費などの繰入である一般会計出資金は 16,578 千円、医療機器の国道からの補助金である特別会計出資金は 6,480 千円、収入合計は 32,258 千円となっています。

次に支出欄をご覧ください

固定資産購入費は備考欄に記載の医療機器と医師送迎用の病院車で 19,944 千円です。企業債の返還金は 24,098 千円で支出合計では 44,042 千円です。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 11,785 千円は、過年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 41 千円及び過年度損益勘定留保資金 11,744 千円で補てんしています。

以上であります。

(委員長)

平成 28 年度決算について説明が終わりました。66,818 千円の赤字決算となった。その大きな理由として平均在院日数が基準に満たしていない月があるということはどういうことか。

(事務長)

平均在院日数は、直近 3 ヶ月の延べ入院患者数と新規入院患者数、退院患者数の割合で算出されるものです。国保病院は 15 対 1 の入院基本料なので、平均在院日数は 60 日以下と定められています。平成 28 年度末から 29 年度初めにかけて、入院患者数が多くなったこと、患者のほとんどが 80 歳を超える高齢者で、自宅での生活が難しく、受け入れ先が特別養護老人ホームやグループホームなどに限られていたことなどにより、一人あたりの入院期間が長くなり、基準を超えてしまったことによるものです。

(委員長)

前年度が 2,200 万円の黒字、今年は 6,600 万の赤字、トータルで 8,800 万円くらい下回ったということですね。これはかなり大きい額ですね。来年あたりどのように改善できるのかですね。

(事務長)

金額で言いますと前年に比較して 88,000 千円のマイナスですが、この中には現金の支出が伴わない支出 減価償却費、給与費の退職給付費引当金も含まれていますのでこれらを除くと 61,000 千円ほどになります。

(委員長)

意見ありませんか。

なければ 28 年度決算はこれでよいですか。

29 年度予算の説明をお願いします。

(事務長)

予算は収入と支出の額が同じになりますが、公営企業会計制度が改正になり、退職手当引当金や賞与引当金など現金の支出が伴わない支出が増加し、これに見合う収入が見込めないことから、29年度予算については、赤字予算の計上をしております。

平成29年度入院収益と外来収益は備考欄に人数と日数と単価を記載しています。前年度の診療単価の実績をもとに算出しています。

医業収益他会計負担金、医業外収益他会計負担金、一般会計補助金、一番下の特別利益は、一般会計からの繰入金です。

歳入全体で前年度比較 5,721 千円増の 1,040,869 千円となっています。

次に歳出費用の給与費は、看護師 1 名増等により前年度比較 7,675 千円の増となっています。手当も看護師 1 名分の増及び人事院勧告等に伴う増であります。

退職給付費は現金の支出が伴わないものであります。前年度比較 18,551 千円の増となっています。材料費は前年度とほぼ同様であります。

経費であります。減価償却費は平成 12 年度の大規模改修の償却が終了したことにより減額となっています。

そのほかは前年度とほぼ同様となっています。

特別損失は、奨学資金返済免除 1 名分であります。

歳出全体で 1,070,295 千円となっています。

資本的収入と支出であります。

医療備品の補助につきましては、3 年連続して補助がつかずと翌年はつかないので 29 年度は対象にならないため、予算は少額となっています。

資本的収入は合計で 28,102 千円、支出の建設改良費は与薬カートとメディカルフリーザのみの 2 点のみで 64 万円、企業債償還金が 37,983 千円、奨学資金貸付金は従来の看護師の他に薬剤師分 1,200 千円を計上し 6,240 千円、歳出全体で 44,863 千円となっています。

以上でございます。

(委員長)

予算の赤字額はどれくらいですか。

(事務長)

赤字予算額は 29,426 千円です。

支出予算額の中で、現金の支出がない減価償却額が 44,472 千円、退職手当引当金が 26,281 千円あります。

(委員長)

このなかでやりくりするということですか。

(事務長)

そのとおりです。

(委員長)

外来患者1名分の単価18,500円は高いと思いますが、どうですか。

(事務長)

これは、10割の金額ですので、一般の方はこの額の3割になります。過去の実績に基づいた単価であります。

(委員長)

しっかり検査をしてくれ、負担もかかるが、自分みたいに遠くの病院に行けない人は大変助かる。自分も助けられている。

(H委員)

1か月に1回受診して2ヶ月分薬をもらえる。そのときしっかり検査して、今はこのような状況だと説明してくれるので安心感がある。内科の先生がいなくなると聞いてとてもショックである。

(K委員)

12月にいなくなるというのは確定ですか。

(事務長)

12月末で診療を終えます。

(K委員)

できるだけ黒字になるよう努力していることが見受けられました。

(委員長)

国は在宅看護ということをいっているが、実際は非常に難しいことである。

(事務長)

昨年から、特別養護老人ホーム、グループホーム、総合支所の福祉担当と病院担当者が月1回病院で、熊石地域包括支援会議を開催し、それぞれが担当できるサービスを協議する調整会議を行っています。

患者を地域で支えながら病気を治していく取組みを進めています。

今は、うまく回転しており、平均在院日数も低く推移しています。

(委員長)

くまいし荘も受け入れたいと思うが介護度が3以上でないとできないという制約がある。入院している人も介護度を上げてもらえればよいのでは。

(事務長)

調整会議を行っているので、そのなかでアドバイスしていきたい。

(委員長)

あと意見はありませんか。なければこれで終わります。